



# からしだね

2021年3月号  
(568号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



JESU XPI  
PASSIO  
300  
YEARS  
JUBILAEUM  
GRATITUDE | PROPHECY | HOPE  
Renewing our Mission

"Saint Paul of the Cross gathered companions to live together and to proclaim the Gospel of Christ to all". (Constitutions, I)

## 本号の記事の主題など

四旬節黙想会 稲葉善章神父による講話  
「御受難を思い起し 今の私を見つめる」

みんなの談話室  
「煌めき」

2021年の四旬節黙想会について

今月の表紙の写真について

## (四旬節黙想会 講話) 「御受難を思い起し 今の私を見つめる」

御受難修道会 稲葉善章神父

私たちは今、教会の暦の四旬節を過ごしています。四旬節とは、私たちにとって、どのような意味を持っている季節なのでしょう。現代における四旬節の意味は、第1に復活祭を準備する期間、第2に洗礼志願者が、洗礼のめぐみを受ける為の準備期間、第3に信者がすでに受けた洗礼のめぐみを新たに作る期間、信者は、償いを通して回心を深めることと、「典礼暦年と典礼暦に関する一般原則」に記されています。四旬節は、準備をする時であり、洗礼のめぐみを新たに作る時です。すなわち、回心をする時です。ですから、今日私たちは、回心をするための黙想をします。回心の黙想は、私たち一人ひとりの心が、知らず知らずのうちに、神様から離れてしまっていることを認めて、主イエス・キリストによって、私たちの心を神様に向け直して頂くための黙想です。今日行う黙想のテーマを、「御受難を思い起し 今の私を見つめる」としました。今私たちの住む世界、日常は、昨年から続くコロナ禍がもたらした困難、不安、苦しみが、蔓延しています。この状況は、イエス・キリストが、歩まれた御受難と重なり合います。イエス様も、困難、不安、苦しみが、蔓延した中を歩まれました。イエス様が、受難をどのように歩まれたのかを思い起こすことによって、イエス様が、受難を歩む時、困難、不安、苦しみの時々、誰に励まされたのかを私たちに示してくれます。私たちに気づかせてくれます。この気づきは、コロナ禍がもたらした困難、不安、苦しみの中を歩む私たちに励ましてくれます。同時に、困難、不安、苦しみの中を歩む私たちの心が、知らず知らずのうちに、神様から離れてしまっていることも教えてくれます。イエス・キリストの御受難を思い起しながら、今の私を見つめ、主イエス・キリストによって、私たちの心を神様に向け直して頂くための良い時をこれから、私たちは過ごします。

今回「御受難を思い起し 今の私を見つめ

る」ために、御受難会の創立者 十字架の聖パウロの日記のことばを助け手としたいと思います。実は、今年は、御受難会 創立300周年に当たります。十字架の聖パウロは、御受難を思い起しながら黙想することをすべての人に伝えるために御受難会を創立しました。記念の年である今年、私たちの四旬節の黙想を十字架の聖パウロが、助け手となってくれると確信します。

黙想に入る前に、御受難会の創立者 十字架の聖パウロ と 御受難会の霊性 (御受難を思い起すこと) について、簡単にご紹介します。

創立者 十字架の聖パウロ 本名 パウロ フランシスコ ダネイ (1694 - 1775) は、1694年1月3日 北イタリアのオバーダという小さな町に生まれました。彼は、24歳頃に、御受難会を創立するようにと強いメッセージを秘めた幻を見たそうです。彼の日記の中で、次のように記されています。

“十字架の聖パウロの日記 (1720年末頃)  
去年の夏 ある平日のこと、～中略～  
道を歩きながら、私は祈っている時のように心を集中させていました。自分の家へ曲がる道の角に来た時、自分の存在の最も深い所で、私は神のうちに引き上げられ、他のことをすべて忘れ、すばらしい内的平安のみに満たされました。すると、私は自分が黒の長い服に包まれているのを見たのです。胸には白い十字架があり、十字架の下には、白い文字でイエスのみ名が書かれていました。” 「十字架の聖パウロの生涯」ポール・フランシス・スペンサーCP著より。

十字架の聖パウロは、この幻から御受難会のシンボルと修道服のイメージを受けました。修道服の色は、黒色です。イエス・キリストの死を悼む 意味を持っています。修道服の胸には、御受難会のシンボル。そ

のシンボルには、イエス・キリストの御受難が示されています。彼は、この幻から御受難会を創立するようと強いメッセージを受けました。創立の目的、目標は、

“キリストの受難の思い出を人々の心に刻み、保たせること” 「十字架の使徒」ウオード・ビドル著より。

この目的、目標について、十字架の聖パウロは、次のように語っています。

“私は、すべての人にこの大きなめぐみを知らせたいのです。苦しみ、特に、慰めの皆無な苦しみをもたらされる時に、憐れみ深い神は、そのめぐみを授けてくださるのです。～中略～ すなわち、祝福された変容へと。魂は、イエスとともに十字架を担うのです。” 「十字架の聖パウロの生涯」ポール・フランシス・スペンサーCP著より。

十字架の聖パウロの想いである “キリストの受難の思い出を私たちの心に刻み、保つ” この言葉を助け手として、黙想を始めたいと思います。

#### ・黙想 (御受難を想起す)

御受難を想起しながら、黙想を始めると言っても、かなり抽象的ですので、戸惑われてしまうかもしれません。御受難を想起し、黙想する為に、今回は、十字架の道行の特に3、7、9留を眺めながら、次の3つのポイントを用いて黙想されたら良いかと思います。

・十字架の道行 第3留、第7留、第9留のイエスの姿を想起す。

・今、私たちの生きる現代は御受難と重なる。

・今、私の歩みを見つめる。

十字架の道行の第3留、第7留、第9留は、イエス・キリストが、十字架の重みに耐えかねて、倒れた場面です。イエス・キリストは、3度も倒られました。しかし、その度毎に立ち上がり、また、十字架を担ぎ、歩まれます。再び、歩み始めます。このイエス様の姿は、現代の私たちの姿と重なり合います。現代、今の世界、日

常、日々の生活は、イエス様が十字架を担ぎ歩いた十字架の道行の様です。私たちの日常は、コロナ禍がもたらした困難、不安、苦しみがあります。それらと向かい合いながら、日々私たちは、生活をしています。時折、私たちは、困難、不安、苦しみと向き合うことが、重く感じてきます。その困難、不安、苦しみと向き合うことから逃げ出したいくなります。その困難、不安、苦しみが、私たちに重くのしかかり私たちに倒します。倒れそうになります。そんな私たちに主イエス・キリストは、御自身が歩かれた十字架の道行、受難の中を歩むイエス・キリストの姿をはっきりと、私たちに示し、困難、不安、苦しみを歩む、私たちに励ましてくださいます。イエス様が、十字架の重みに耐えられずに倒れた時、その度に彼は、立ち上がりました。重みに耐えられずに倒れたのに、なぜ、イエス様は、立ち上がることが出来たのでしょうか。重みに耐えられない、それは、肉体的に限界を迎えています。精神的にも同じように限界です。立ち上がる為の身体的な力は、ありません。精神的な力もありません。精も根も尽き果てています。けれど、イエス様は立ち上がります。イエス様が、立ち上がる時、イエス様の顔がどこを向いているのかに注目します。イエス様の顔は、上を向いています。上を向く、天の父である神様へ顔を向けられています。イエス様が、倒れた時には、彼の顔は、下を向いていました。しかし、顔を下から上に向け直したイエス様に、天の父である神様がイエス様をカづけられます。カづけられたからこそ、イエス様は、立ち上がることが出来ます。そして、再び、十字架を担ぎ、歩み始められます。現代の私たち、コロナ禍を歩む私たちは、イエス様が倒れた時のように、私たちの顔は今、下を向いていないでしょうか、コロナ禍が運んできた困難、不安、苦しみによって、私たちの顔は今、下を向かされているのではないのでしょうか。コロナだから諦めよう、コロナだから仕方がない、コロナだから……。下を向いている時私たちの目には、イエス様が映っていません、イエス様を見失っています。希望が見えません。今、特に四旬

節を過ごしている私たちは、いつの間にか下を向いてしまった私、私たち、自分自身のその姿を認め、見つめる時です。なぜならば、自分自身でも気がつかない内に、下を向いてしまっていること、しかもイエス様を見失ってしまっていることすら、気がついていないからです。これが意味するのは、私たちが、十字架の重みに耐えられなくなって、倒れてしまっていることに気がついていないことです。

私たちが、どのような困難を受け、何に不安を覚え、何に苦しんでいるのか、どの様に、歩めばよいのか、多くのことに迷い、それらに振り回されて、疲れてしまった状態です。

では、どうしたらよいのか。私たちは、下を向いている私の顔を、私たちの顔を、上に向かせてくださるよう、イエス様に願うことです。願うことができます。願う時に、十字架の聖パウロのことばが、今日私たちを助けてくれます。

“私は、すべての人にこの大きなめぐみを知らせたいのです。苦しみ、特に、慰めの皆無な苦しみをもたらされる時に、憐れみ深い神は、そのめぐみを授けてくださるのです。～中略～ すなわち、祝福された変容へと。魂は、イエスとともに十字架を担うのです。”

御受難は、イエス様が歩かれた道です。その道を現代の私たちも歩いています。イエス様が私たちと共に歩まれる道だからです。

私たちの歩いている道は、日常です、毎日の生活です。この中にコロナ禍がもたらした困難、不安、苦しみが、今あります。日常、生活の中に困難、不安、苦しみがあつて、私たちは、その困難、不安、苦しみに逃げられませんが、放棄することも出来ません。なぜならば、私たちはこの日常を生きているからです。だからこそ、私たちは、コロナ禍がもたらしたその困難、不安、苦しみと向き合って踏ん張っています。しかし、だんだん疲れて、その踏ん張

りも効かなくなってきました。下を向いてしまいます。困難、不安、苦しみから逃げずに、放棄せずにまた、再びその困難、不安、苦しみと向き合い、踏ん張ることを現代の御受難を生き、歩んでいる私たちに、イエス様が望まれています。再び、立ち上がり、十字架を担ぎ、歩むことを。イエス・キリストが、御受難 特に十字架の道行の第3留、第7留、第9留で私たちに示した姿を私たちに歩むように強く望まれています。けれど、イエス様が、私たちにどのように望まれても、私たちは、尻込みしてしまうのではないのでしょうか。なぜならば、再び、踏ん張るには、痛みや苦勞が伴います、そして気力、体力も必要です。ですから、イエス様が望まれていることを果たすためには、私たちだけでは、もしかすると、無理なことなのかもしれません。だからこそ、御受難を、毎日の生活を共に歩んでくださる方イエス・キリストに、私たちは願います。下を向いている私の顔をあなたに向け直してください。

#### ・御受難を思い起す 主イエス・キリストからの励まし

私たちは、「御受難を思い起し 今の私を見つめる」黙想をしました。その黙想の中で、私たちは、特に十字架の重みによって、倒られたイエス様の姿を思い起しました。その姿は、現代の私たちの姿です。イエス様は今日、私たち一人ひとりに、御受難を歩むイエス様と私を重ねてくださいました。今の自分自身を見つめさせてくださいました。私たちが、御受難を思い起す時、イエス様が、私たちに励ましてくれます。その励ましによって、私たちが、どのような困難を受け、何に不安を覚え、何に苦しんでいるのか、どの様に、歩むのかなどをイエス様が、示してくださいました。

“私は、すべての人にこの大きなめぐみを知らせたいのです。苦しみ、特に、慰めの皆無な苦しみをもたらされる時に、憐れみ深い神は、そのめぐみを授けてくださるのです。～中略～ すなわち、祝福された変容へと。魂は、イエスとともに十字架を担うのです。”

コロナ禍がもたらした困難、不安、苦しみが、蔓延している現代を歩む私たち、知らず知らずのうちに下を向いてしまった私たちが、イエス様に励まされて、再び、私たちの心が神様に向け直して頂けますように。

神に感謝



### 2021年の四旬節黙想会について

研修委員会

コロナ禍という苦難は私達のカトリック教会も直撃しており、黙想会の開催も見送りが続いています。今年は御受難会300周年の記念すべき年でもあることから、稲葉神父様に四旬節の黙想会に代わる特別な黙想の講話をからしだねに載せて頂く事となりました。お読み頂き黙想して頂く事で皆さまの理解と信仰がより深まる事を心よりお祈り申し上げます。

### 3月のガラスケースのみことば

あなたがたは キリストの体であり また一人一人は その部分です

コリント1 12・27

(福音宣教委員会撰)

みんなの談話室

「煌めき」

マリア・ベルナデッタJ.U.

苦しんで 苦しんで

そうして人は真のやさしさを身に纏まとえるようになる

「ふにやふにや、の偽物の優しさ」じゃないんだ

「本物の、真の強さ」をもった優しさを身に纏う

涙の数だけ愛は深くなる  
心の呻きから愛は生まれる  
涙の数だけ愛は深くなる

転んだ数だけ  
何かを掴んで そうして いつか立ち上がる

転んで掴んだ「なにか」  
それは宇宙で煌めく星のように  
あなたの心を煌めかせるために必要な「なにか」  
なのだ

そして  
「なにか」とは  
いつも  
いつだって

「あの人」から来る  
だから掴もう  
そして煌めこう

(英文)

“Twinkling”

Suffering, suffering, suffering!

But then, we have been wearing heart-felt kindness.

It is not fake kindness.

We have been wearing true and strong kindness.

How often did you weep?

How much is your tears?

Shedding tears makes our mind have tender love.

A lot of tears make our soul have tender love.

Passions are born from painful and sorrowful heart, always.

How many times did you collapse down until today?

Are you collapsed now?

However, we can rise up someday, finally.

When we rise up, our souls get “Something”, always.

When we rise up, “Something” is added to our heart, always.

If you break down many times, you must have many “Somethings”

“Something” is very important and indispensable to us.

Because “Something” makes our souls to twinkle like stars in heaven.

And, yes!

“Something” comes from Jesus every time.

## 今月の表紙の写真について

御受難会修道院の設立三百周年を祝い、記念するポスターです。「十字架の聖パウロはキリストの福音を世に伝えるため、ともに暮らす仲間を集めた」とあります。イエスは仰せになりました。「二人また三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ18:20)

御受難会設立から三百年を迎えられたこと、まことに喜ばしく、お祝い申し上げます。三百年前といえば、日本では八代将軍徳川吉宗が享保の改革を成し遂げたころ。そんな昔から今日に至るまで、御受難会は絶えることなくイエスの受難を黙想し、祈り、福音を伝えてこられました。イタリアから始まった御受難会修道院は今や世界各地に拠点を持ち、同じ志を持つさまざまな人種の修道士たちが黙想と宣教に励んでおられます。さらに次の百年に向けて力強く歩み続けられ、キリストの御受難を語り伝える使命をまっとうされますように。そして今後も私たちをお導きくださいますように。おめでとうございます。

写真は御受難修道会から提供されました。

## 黙想会のお知らせ

### 宝塚黙想の家

#### ■ 日帰り黙想会 10:00~15:30

3月9日(火)

指導: 稲葉 善章 神父

3月25日(木)

指導: 染野 治雄 神父

3月26日(金)

指導: 山内 十束 神父

#### ■ 一泊黙想会

3月9日(火) 17:00~10日(水) 15:30

指導: 稲葉 善章 神父

3月27日(土) 17:00~28日(日) 15:30

指導: 染野 治雄 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111



## 3月の年間行事予定の変更

- 3/6 アルファ・コースは中止。
- 3/7 一斉地区集会は中止。
- 3/13 ドレミの会は中止。
- 3/20 日曜学校卒業式とお泊まり会は中止。
- 3/20 アルファ・コースは中止
- 3/21 食物の奉獻は中止。
- 3/21 社会活動委員会ミーティングは中止。
- 3/24 釜ヶ崎訪問は中止。
- 3/28 大人の日曜学校は中止。
- 3/28 研修委員会は中止。

## 編集後記

昨年2月末にCovid-19に伴って本邦に緊急事態宣言が出されて、池田教会の公開ミサが91日間中止されてから一年が経過した。公開ミサは6月から再開されたが、コロナ・ウイルスの勢いが続いていてウイルスとの共存状態が継続されている。やっと外国産のワクチン接種が本邦でも開始されて、当面の見えない敵との闘う術を人類が手にしたかのように思われる。しかし、それまでに見えなかった多くのわたしたちの個的な在り様も社会的な在り様も多くの覆いが外されて、見えてきたのは生物にある生への強い衝動と測り知れない生態への心遣いの不足ではなかったか。それは、進化の先端に位置付けられた人と原始的な単細胞生物より小さなサイズの生き物との出会いだからこそ一方的な関係になったのではないか。未知のウイルスへの感染不安から学校教育の3カ月間の停止、商業や旅行業の停滞と政治の混乱を生んだ。折しも、カトリックの先達がわたしたちに勧めたのは経済活動ではなく相互的なケア活動であった。

教皇フランシスコ様は世界の人々への新年メッセージの中で、無関心なエゴイズムの代わりに「ケアの文化」を人のエッセンシャルな業として対置され、大阪司教区の補佐司教酒井敏弘様は2月の大阪カトリック時報で「連帯」を挙げた。それらは温暖化が導く自然災害の過激化やパンデミック、地球人口増、貧富の格差の増大が重なり合っている地球に棲む人々を強く、優しくしてくれる和の行動だった。 インマヌエル